

海外で学ぶということ

子どもたちが海外で学んで本当に良かったと思えるように。

上海日本人学校 浦東校
前校長 入江 正



上海日本人学校 浦東校

大きな不安を小さな心に抱え

「ドバイの空港のオレンジ色のナトリウム灯が眼下に見えてきた時、心細くて思わず涙があふれてしまいました……」。これは私が1989年から3年間派遣されていたドバイ日本人学校の生徒が、転校してきた日に書いた作文の一節である。私にとって忘れられない言葉として今も心に刻まれている。どこの国であれ都市であれ、自ら海外に行くことを希望し、そこで学びたいと思ってやって来る子は1人もいない。子どもは心の通った友や慣れ親しんだ学校と突然別れ、言葉も生活習慣も全く違う地に大きな不安だけを小さな心に抱えてやって来るのである。

「上海に来て、初めて父の働く姿に触れました。父が中国と日本との関係の中で、中国の人たちと協力して素晴らしい仕事をしていることを知り驚きました。……私は将来、世界の中で日本人として、みんなの役に立つ仕事に関わっていきたいと思っています」。これは反日感情が高まっていると報道されていた2015年の上海日本人学校浦東校^{フードン}で、中学3年生の生徒から私が聞いた言葉である。海外で学ぶことを通して多くの子どもたちは、次代の日本を、世界を支える自覚と未来への夢を育てていくと私は思う。

大きな不安をもちながらもそれを克服し、海外で学ぶことを決心した(?)子どもたちが海外

で学んで本当に良かったと思えるようにすることが、我々大人の責務であると思っている。

海外子女教育の制度

海外での教育は、基本的には保護者や現地の日本人の自助努力によって行われるものとされている。海外の教育に関する行政の支援は、文部科学省および外務省の協力のもとに進められている。また、公益財団法人 海外子女教育振興財団が政府の手の届かない部分で各種の事業を行っている。

海外での教育施設として、次のようなものがある。

日本人学校 日本の関係法令に準拠して小・中学校における教育を行うことを目的とする全日制の教育施設。

補習授業校 国語等の学力維持のための施設。中には教科の教育のための補完的教育施設となっているものもある。

インターナショナルスクール 日本語以外の言語を用いて教育を行う施設で、独自の教育方針のもと運営されている。多様な学校が存在するが、英語を使用する学校に通う場合が多い。

現地校 各国において現地の言語で教育を行なっている学校で、その国の法令によって運営されている。